

フランス語における付加形容詞の分布について

谷川 恵

(東京大学大学院)

本発表では、フランス語における付加形容詞の分布について、主に統語的な観点から検討し、特に、Bally (1965)等で関係形容詞(*adjectif de relation*)と呼ばれてきた用法(以下、関係用法と呼ぶ)において、形容詞が他の用法とは異なる統語上の位置に現れることを主張する。

関係用法の場合、形容詞は、以下の特徴をもつ。(i)文中の属詞の位置に生起できない。(ii)程度副詞による修飾を受けることができない。(iii)必ず名詞に後置されなければならない。関係用法には、固有名詞から派生した形容詞の用法(e.g. *français, parisien, nixonien*)のほか、学問・産業・身体部位などの名称を表す場合(e.g. *médical, agricole, cérébral*)などが該当する。

従来、名詞に後置される形容詞に分類されてきた形容詞には関係用法、非関係用法という 2 種類の用法があり、用法によって統語的に異なる位置を占めることを検証する。複数の意味を持つ形容詞を用いた文法テストを行い、(i)非関係用法の形容詞は、先行研究において観察されてきたのと同様、名詞と名詞の補部から成る構成素の外側に現れるのに対し、(ii)関係用法の形容詞は、名詞とその補部の間に現れることが可能であることを示す。

最後に、同じ位置に生起する形容詞に共通する統語・意味の傾向について検討する。